

仙台司教区 教区事務所だより



(第 59 号)
昭和57年9月1日

“司牧目標”は一人ひとりの信仰指針

― これまで、どれだけ実行できた? ―

この年のはじめに新しい信仰生活を誓ってからもうすでに9月。一年の四分の三が過ぎようとしている。はたして新年の決心がどれだけ実行できただろうか。たちどまって振り返るにはよいときだ。

教区長・佐藤千敬司教は年頭司教書簡で、仙台教区これから三年間の司牧目標「キリストの平和を家庭から社会へ」を発表した。これは私たち仙台教区の信者一人ひとりの信仰生活の具体的指針である。つまりキリストの平和を身につけ、日常生活の中で実践することをねがっている。とくに一年目の今年は、キリストの平和とはなにかを学び、それを自分のものとするのが目標とされた。

*「キリストの平和」は実行が大事
さる6月に仙台教区の司祭は、キリストの平和とはなにかを、司祭大会で研修した。また、地区や小教区教会でそうした催しがいくつも見られた。キリストの平和についての勉

強はこれからも続けられよう。しかし、知識としてキリストの平和を完べきに知ることよりは、キリストの平和の実行こそがもつと大事なことはいうまでもない。「平和をもたらす人は幸いである。その人は神の子と呼ばれるであろう」とキリストは教えている。洗礼によつて神の子と呼ばれる私たちが、平和をもたらず人となるのは当然のこと。そしてこのことは、私たちの使命である福音宣教の具体的な内容でもある。

*まず私から身近のひとへ

とにかく、私たち信者はふさわしく神の子と呼ばれるために、周囲に平和をもたらず人とならなければならぬ。それが同時に、今年の司牧目標そのものでもある。もういちどこのことを強く認識しよう。争いやもめごとの種子を蒔かず、憎しみや悲しみを持ち込まない。かえつて人びとの間にいつも喜びや慰め、理解や一致をもたらす。そのためには私

たち自身はまず、キリストの平和に満たされた人となる。どんなときにも、どんな人にも、言葉も行いも穏やかで、思いやりがあり、寛大であること。家庭では夫は妻に、妻は夫に、親は子に、子は親に、兄弟姉妹もお年寄りもみんながそんな気持ちでいるなら、そのとき家庭はキリストの平和に満たされよう。

*もうひとふんばりしよう

この九か月、キリストの平和に満たされるため、私たちはどんな努力をしたろうか。どれほどキリストの平和を身につけたろうか。最初の第一歩は、小さな私の仕事のひとつから始まる気がする。世界の平和も人類の平和も、戦争のない世界の実現も、一人ひとりの心にキリストの平和が確実に根づくことによつて生まれるはずだ。今年の残された三か月を努力しよう。

司教日程 (8月20日現在)

- 9月17日 スベルマン病院理事会(仙台)
- 19日 福島県信徒大会
- 21/22日 神学校常任委員会(東京)
- 23日 司教評議会(仙台)
- 26日 仙台YBU30周年記念
- 27日 教区司祭団月例会(仙台)
- 28日 男女修道会合同役員会(東京)
- 29日 社会福祉法人理事会(仙台)
- 10月2日 盛岡白百合学園新築落成式
- 3日 人首教会百年祭(水沢)
- 4日 教区司祭団役員会(仙台)
- 5/6日 司教協・財務委員会(東京)
- 10/11日 新潟司教区設立70周年記念

全国カトリック保育大会

仙台市で開催



カリタス・ジャパン保育施設協会主催の第十三回全国カトリック保育施設研修大会が、さる8月4、5、6日の三日間、仙台市の斎藤報恩会館を主会場として催された。

テーマは「保育と宗教」。カトリック保育所の独自性にふれて保育を考えると、いつも根本的な課題を取り上げた。カトリック施設には、総じて信者でない教職員が多数働いているが、その方たちへの啓蒙も目的のひとつだったようだ。その意味では札幌藤女子大教授後藤平吉氏の基調講演は適切で、氏独特の弁舌と豊富な教会センスで、カトリック福祉施設のなすべきことを歯切れよく主張、つよい示唆となった。四グループに分かれた分科会では、それぞれ施設での体験の分かち合いもあり、カトリック保育所としての独自の使命を確認し合った。分科会ごとのまとめは最終日の全体会で全員に紹介された。

台風災害などで不参加者もあったが、九州や関西からの参加者を含めて、百人以上が熱心に研修を行った。

開催地司教として佐藤司教は三日間出席、元寺小路教会での閉会ミサでは、参加司祭とともにミサを司式、大会の大きな励ましとなった。会期中行われた総会で人事の変更が決まり、創立以来の会長だった岡淑人神父の後任として、東京・聖マリア保育園の塚原富さんが会長に就任した。

仙台教区司祭大会（前号続き）

各会の発表



① 聖書の中の平和（ドミニコ会ペロー神父）
創世記から始まって旧約、新約聖書に見られる、神からの平和を追究、アダムとエヴァに与えられた平和の状態（楽園）は人間の罪で失うが、神はいつもそれと並行して平和の約束、契約を与えている。それが旧約時代にくりかえされ、予言された平和の君であるキリストの誕生まで続く。いまその平和を確かなものとするには、イエズスの教え、私があなたたちを愛したように、互いに愛しなさいがその道であると結んだ。

② 平和の源泉である典礼（ベトレヘム会グイヴィレル神父）

教会は神からの平和を秘跡、準秘跡、聖別などで与えられ、各秘跡に見られる平和にかかわる典礼文を解説した。とくにゆるしの秘跡、ミサ（聖体の秘跡）は人びとを平和に導くものとし、このように神から平和を受けた私たちは、その平和を現代社会にもたらす責任があると語った。

③ 共同体の中の平和（ケベック会エノ神父）
共同体（司祭団でも小教区教会でも）の中に、常識によらない神の平和を保つ条件をあげた。そのひとつ、共同体として活動する前に真理と愛を結婚（調和）させないといけない。それぞれの考えを強調しすぎてもいけないが、真理を棄ててもいけない。聖パウロの

教えるように愛を強調しなさい、という。
④ 教皇訪日の平和アピール（教区司祭団佐々木博神父）

教皇の広島での平和アピールには、戦争や暴力によらない平和の実現が出来るという確信、前むきの姿勢がみちている。この訴えに日本のカトリック者がどう答えるかが課題だが、まだまだ意識も十分でない。カトリック者として、日本人としての使命を自覚して具体的な実践の決意をもとう。

⑤ 社会に働きかける我々の平和（グアダルベ会ニボン神父）

これはキリストの平和を世に実現することだが、一致とへだての壁や敵意を捨てることで行うことが大事。また平和には正義が必要だが、それもキリストの正義でなければならない。

第13回

福島県カトリックの集い

― 白河で開催予定 ―



第13回福島県カトリックの集いが来る9月19日（日）、白河市中央公民会館で開かれる。

年に一度、一か所に集い、主を賛美し、語り合い相互に高め合うことを目的として開かれるこの集いに多数参加するよう呼びかけている。詳細は次のとおりである。

- テーマ「家庭から社会にキリストの平和を」
 - 所 白河市中央公民館
 - 時 昭和57年9月19日（日）Am 9:30 ~ Pm 3:30
 - 特別講演 「キリストの平和」
- 盛岡志家教会信徒会長・石川 晃氏

.....弘前・大清水ホームで.....
職員研修会.....
カトリック老人福祉施設.....
東北・北海道支部.....

去る8月2〜4日の三日間、カトリック老人福祉施設東北・北海道支部（支部責任者＝函館旭ヶ岡の家園長グロード神父）の職員研修会が弘前大清水ホームで開催された。参加者は、同支部管内の七施設の職員16人。研修目的は、カトリック系老人福祉施設に勤務する新任職員が、老人福祉に関する知識、利用者処遇の実務を通して、カトリック系老人福祉施設の役割の理解と職務に対する自覚を深めるためであった。

主な研修内容 (1)「老人処遇における職員のあり方」(講師＝弘前大学教育学部養護学科看護学教授高松むつ氏) (2)「カトリック系老人福祉施設の職員像 その期待と課題」(旭ヶ岡の家事務長・祐川真一氏) (3)「寝たきり老人の生活体験発表」(和幸園生活指導員山内あい氏)。その他、実務研修、弘前市内老人福祉施設見学研修、みことばの祭儀。

以上のプログラムを通して、「心をつくし魂をつくし精神をつくして神を愛する精神をもって老人に奉仕する」、「このいと小さき者にしたことは神にしたことである」といった職員の基本的姿勢を強調すると同時に、処遇理念を実現するためには、実務の修得、職員組織の確立といった現実的方法の重要性を確認した。

浜通り四教会の「やろう会」



浜通り四教会有志の親睦会、何ごともやる気でないこうと名付けた「やろう会」。ご婦人も大歓迎で、決して「野郎会」ではない。ここ数年は開店休業の状態だったが、今年は信徒協議会の執行部を浜通りで引き受けたこともあって、まず「やろう」と第二回の「やろう会」が6月30日の夕方開かれた。

平教会のグロロー神父、小名浜教会のモレン神父も参加、四教会から二十人（内女性五人）が集まり、ユーモアたっぷり自己紹介のあと、信徒としての自覚や聖書の読み方の問題、子供の教育問題から青少年非行のことにもふれ話はずんだ。ビールやウイスキーや、玉子酒などの力も加わり、談論風発、お互いの話し合いに花が咲き、大いに「やる気」になったところでカラオケ大会、この人がと思わせるようなノドを次々に披露した。モレン神父さんもフランス民謡「アルエット」を歌い、一同も合唱、たのしい「やろう会」がいつまでも続いた。

塩釜教会

ことしは一関教会を訪問

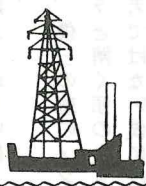


一教会同士の交歓をすすめる一
 十三台の自家用車に分乗した、塩釜教会信徒六十六人は、さる6月6日午前8時に教会を出発、東北自動車道を一路一関へ。午前10

時半から、一関教会鷹嘴達衛神父、塩釜教会土井文雄神父の共同司式ミサに与った。聖堂は両教会の信者で一杯になり、まるで大祝日のごミサのように、敬けんな中にも兄弟的意識を感じさせる暖かいミサとなった。

塩釜教会では昨年、石巻教会を訪問、両教会信者が一緒にミサに与ったが、今年3月まで5年間塩釜教会を司牧された鷹嘴神父様の転任先一関教会を訪問した。ミサ後ホールでの交歓会では、持ち寄りの弁当を、皆でつまみ、山菜のごちそうなどもあり、最後には一関名物、須川音頭を両教会で踊るなど、楽しい時を過ごした。その後、一関の方々の案内で、厳美溪、毛越寺で遊び、素晴らしい兄弟としての一日を過ごした。

おしらせ



- △住所変更▽
 - ◎上智大学教授の安井光雄神父様の住所が9月23日から左記に変更になります。
 - ・新住所 165東京都中野区沼袋二丁目40の8カーサ沼袋703号(Tel.03-387-0703)
 - ◎盛岡のシャトル聖パウロ修道会の住所は白百合学園移転に伴い8月下旬から左記に変更になりました。
 - ・新住所 020盛岡市山岸庚申下31(Tel.0196-616333)
 - △YBU30周年文化祭の時間が左記のようになり一部変更になりました。▽
 - ・9月26日(日)の記念ミサは午前9時半から元寺小路教会にて。なお同日の展示会は11時から5時まで行います。

中学生

△青森V 8月8日から11日までの四日間、八戸市の白菊学園生徒会館で、「祈り」をテーマの練成会をひらき、県下の信徒中学生十六人が参加した。幼児洗礼者が中学生の年齢でいちばん困難を感じるのが祈りの問題、今回はとくにこの祈りをテーマにえらんだ。三人の司祭が提供した話題、「ロザリオの祈り」、「十字架の道行きの祈り」、「静かに祈る」を四回に分けた学習時間に討論、また考えを絵にまとめたり、自分たちで実際に祈りの文章を作るなどして、具体的に祈りを考えた。「祈るときの困難さ」という質問に、「めんどろくさい」とか、「祈ってもムダな気がする」などの答えもできたが、毎日祈る心を持つためにはどうしたらよいか、などが真剣に語られた。

△宮城V 宮城県カトリック中学生会では、県下の中学生三十四人とリーダー二十人、計五十四人が栗駒山麓の花山少年自然の家で、三泊四日の共同生活を体験した。この集いのテーマは、「啓(ひらく)」。つまり聖書を通して、秘跡を通して、神が私たちの心のくもりを取りさり、人として神の子としての生き方を教えて下さる、ということ。このテーマのもとにプログラムがつけられた。

栗駒山登山、グループごとの野外炊さん、オリエンテーリングなど。また聖書の知識をチェックするゲームや頭脳プレイを要求され

夏若者の各地教区

中学・高校生らの合宿催さる

夏は若者たちのもの。この夏の教区内各地で中学生や高校生が合宿があった。そのなかを現地から報告する。



高校生

るゲームなど、天候にも恵まれ、楽しい有意義な時を過ごした。

△岩手V 岩手県カトリック高校生会では8月11日から13日まで、大船渡教会を会場に合宿を行った。今年のテーマは「平和」。指導は平賀徹夫神父、総責任はパウマン神父。そのほか板垣神学生、大船渡教会のカテキスタの村口さん、久慈教会の玉置さんが手伝った。具体的な準備は各高校生が分担、二月頃から準備を始めたが、合宿近くになり学校の行事などで十分準備ができなかったのが心残りだった。しかし、岩手県各地から参加して、平和についてお互いの意見を述べ、考えが豊かになったことなど成功だった。話し合いでは以下のことを確認した。

平和とは、まず自分の心の中から始まる。家庭、学校、地域社会の中の平和の実践が今の我々には大切。そのため「一致」が必要。相手を理解する心、許す心、一つの目標に向かつて一緒に協力して作り出すチームワーク、それが大切。

△青森V 青森県のカトリック高校生の夏期合宿、ヤング・クリスチャン・トレーニング・スクールが今年も8月1日から4日まで弘前の大清水ホームで行われた。参加者は県下高校生三十一人。主なプログラムは作業奉仕を中心としてホームでの誕生会、余興参加、入

居者との語らい、職員研修会、生活体験発表の聴講も行われた。これらを通して今年も自分の信仰を体験的にとらえ、新たな気持ちで二期を迎えることができよう。

夏期合宿に参加して

中一 山家秀俊

宮城県中学生会の合宿は、僕にとって今年最高の思い出となった。登山、イエスの障害(生涯)ゲーム、オリエンテーリング、言葉探し、キャンプファイヤー、ミサ、野外炊飯、友達のおしゃべりなど、数えきれないほど沢山の楽しい思い出である。

イエスの障害ゲームでは、僕らの班のメンバーの聖書の問題をスラスラと解く頭の良さにはびっくりした。まだ信者ではない僕にはそういう問題は無理だった。登山は、最初、天気が悪かったが登っているうちによくなり、途中後ろをふり返ると雄大な景色が見え、雲をも見下ろすことができた。深くは、こんな体験は初めてで登りながらいつまでも眺めていた。頂上に着いた時は、もう困りは真っ白で、何も見えなくなっていた。山上のミサの時には、再び悪候に見舞われ、パンを持っているパウロ神父様がかわいそうだった。短い4日間だったが、皆と楽しく過ごすことができ、本当に良かったと思う。

神の偉大なる恵みに感謝!

'82教区目標
家庭から社会にキリストの平和を!

地区 会
 ナ 介
 ア 紹
 二階堂 (88歳)

皆様、私共のアンナ会をご存知でしょうか。宮城県・仙塩地区の婦人連盟、暁の星会の一部で、老人や病弱で、体力では奉仕のできませんが、「お祈りで奉仕いたしましよ」との集いです。

発会してから今年で11年目、名簿では三十八人ですが、帰天なさった方が六人、暁星園に入られた方が三人、外出不可能な方々なども多く、毎月の出席者は十五人内外です。会場には仙台の亀岡の老人センターの一室を予約しており、毎月一回午前10時から午後3時まで昼食持参で集まります。まづお祈り。ロザリオ一環とマリアの連禱で約一時間かかります。参加者全員が次々と順番に先読みをいたしますので、何人かの方は二回になるようです。

お祈りが終わって昼食、そして語り合いが続きます。何しろ忘れっぽい年寄り達のことですので、お説教や読書で感激した聖言、聖句はメモしてまいりまして、発表なさる方、読まれる方、写し書きなさる方など、皆さんとても熱心です。

実は、やっとここまで進歩いたしました。年寄りと申ししても若い時からの信者はごく少なく、中年、高年の受洗者が多く、ロザリオは持つても…：祈禱書は用意してあつても…：という状態の方も少なくはございません。

午後2時半ごろから聖歌を7つ位歌います。十人集まれば十部合唱、十五人集まれば合唱というわけで神さまもさぞご苦笑なさつてるでしょうが、この熱意は汲みとり下さるものと張り切つて歌います。

歌い終わって、「ごくろうさまでした」「有りがとうございました」「又、お逢いできませうように」と言葉をお交わして散会いたします。指導神父様には、教会をお持ちにならない増田神父様(ドミニコ会)をお願い申し上げ

この世の最上のわざは何?

楽しい心で年をとり
 働きたいけれど休み
 しゃべりたいけれど黙り
 失望しそうな時に希望し
 従順に、平静に
 おのれの十字架をになう

若者が元気一パイで神の道を
 あゆむのを見てもねたまず
 人のために働くよりも
 けんきょに人の世話になり
 弱つて、もはや人のために
 役立たずとも
 親切で柔和であること

老の重荷は神の賜物
 古びた心にこれで最後の
 みがきをかける

最上のわざ

ヘルマン・ホイヴェルス



ております。そして毎年帰天なさった方々の命日と、十一月(すべての死者のため)には欠かさずごミサをお捧げしていただいております。献金袋は集会場の柱にかけておき、皆様は任意に献金をさっております。

帰天者のごミサの残金は貯金しておきまして、先月集会会(6月21日(第3水曜日))の帰り途、有志揃つて司教館を訪れ、「煉獄の靈魂のため」にグレゴリアンのごミサ(30回)を司教様にお願ひ申し上げました。

まことのふるさとへ行くために
 おのれをこの世につなぐくさり
 少しづつはずしていくのは
 真にえらい仕事

こうして何もできなくなれば
 それをけんそんに承諾するのだ
 神は最後にいちばんよい仕事を
 残してくださる
 それは祈りだ！
 手は何もできない
 けれども最後まで 合掌できる
 愛するすべての人の上に
 神の恵みを求めるために
 すべてをなし終えたら
 臨終の床に神の声をきくだろう
 「来よ、わが友よ
 われ汝を見捨てじ」と

おらが
教区 (23)



青森・弘前教会

弘前市は、青森県の西南部に位置し、津軽藩十万石の城下町として古くから栄えてきた都市で、戦前は軍都、戦後は学都として発展し、「お城と桜とりんごのまち」と呼ばれる観光都市でもあります。

さて、この弘前にカトリックが入ったのは、古くキリシタン時代の16世紀末で、津軽初代藩主為信の長男・信建、三男・信枚(第二代藩主)が共に洗礼の恵みに浴していることが記録(日本切支丹宗門史)に残されております。明治維新後の明治7年、バリエ外国宣教会のアリヴェ神父によって伝道の第一歩が印された弘前カトリック教会は、昭和49年に宣教百周年を記念しました。宣教百年の歩みを当時の杉山信徒会長が、「百年の歲月」の詩に託して発表したものを紹介いたします。

「明治のはじめ、名もゆかしい植田町で、宣教の種をはじめて蒔いたアリヴェ神父様。転々と移った借家住まいから、教会の土地を買うために大事な植物標本を売ってしまっ

た植物学者の神父様もおりました。弘前一番の腕さきの棟梁の弟が信者になって、美しい聖堂を建てさせた神父様もおりました。

野口英世博士が若い時、フランス語を習ったというおひげのふかい神父様もおりました。真つ赤なオートバイで布教にまわり、母国からのおみやげに宝物の祭壇をドッサリ運んで、私たちを驚かせた神父様。

戦時中切支丹の生き字引、厳格で切支丹氣質の司教様。

終戦後間もないころ、引き揚げ者の寮をつくって一枚きりのオーバーまで売って、寒さに震えた神父様。

スコラの権威で私達に類比の方法を教えて下さった哲学者の神父様。

毎日毎日忙しく布教に走り回って私達の知らないどんな細道も知っておられた神父様。

百年の歳月につらなり、神父様ひとりひとりのお姿が、輝いて浮き彫りのように見えてきます。

聖堂は、ひっそり、静かに、ここに建っています。時は移り、人は変わっても、永遠の愛の教えを、みんなに伝え、守りましょう。

神さまの み栄えのために。」

現在の弘前教会は、主任司祭デュメン神父、助任司祭ビエール神父、そして小教区内の弘前カトリック学生センターのエノ神父、弘前清水水ホーム、同保育園、同学園のエメ神父の4司祭を中心に、聖母被昇天修道女会弘前修道院、弘前カトリック幼稚園、弘前明の星

幼稚園等の関係施設との連携を持ちながら、諸活動、諸事業に努めております。

教会活動としては、信徒会、壮年男子によるヨゼフ会、婦人活動としてのマリア会、勤労女子信者のマルタ会、若い母親のグループともしび会、ボーイスカウト青森第35団活動、ガールスカウト第9団活動、日曜学校、中・高校生活動、共助組合等、又、他教団との共同活動としては、毎年市民クリスマスにメサイア全曲演奏会の共催、キリスト教一致祈禱集の実施等があげられます。

なお、本年度の教会活動テーマは、教区司牧目標に基づいて、「家庭から社会にキリストの平和を」をメインテーマに、信徒会活動目標を、(1)家庭における子供の宗教教育、(2)キリスト教的青少年の育成とリーダー養成、(3)カトリック家庭実現のため未信者家族への福音的活動、(4)カトリック共同体(信徒相互、家庭相互の連帯)の実現、(5)教会から離れた信者の復帰活動、(6)教外者を受容できる兄弟愛と魅力ある教会づくり、(7)祈りと典礼を中心としたカトリック家庭づくり、とし、カトリック教会が社会から問われている課題と期待に対し、愛と信仰による福音宣教の新しい火を点ずることを決意しているものであります。

(須郷 三史記)

仙台司教区事務所だより第59号
昭和57年9月1日発行
発行所 仙台司教区事務所
980仙台市本町一丁目2番12号 TEL 0222 22 7371